

「防災で大切なこと」をテーマにチラシを制作 チラシ配布で防災の呼びかけ

11月22日、身近に起きる災害への備えを呼びかけるために地域世帯へ防災チラシを配布しました。生徒それぞれが「防災で大切なこと」をテーマにチラシを作成し、11月8日に行われたコンテストで選ばれた作品をデザインに採用。チラシを受け取った住民からは「防災に必要な物が確認でき、わかりやすい。家の目に付く場所に貼っておきます」などの声も聞かれました。



①地域世帯に作成した防災チラシを配布する生徒 ②作成した防災チラシ

田代中学校で始まった防災学習プログラム

生きるための防災力

自らの命を守る力、大切な人を助ける力の定着を目指して3年間に渡り、取り組んできた防災学習。最終年度の学習内容をレポート！

自分の身は自分で守る、守られる側から守る側へ

地域の特性を生かして各小中学校が独自に取り組む「特色ある学校づくり」。その一環として田代中学校が進めているのが、災害に対応できる力を身に付ける防災学習です。

自分の身は自分で守る、守られる側から守る側に立つなどを目標に、「知る」「考える」「動く」を各年度のテーマとして設定。昨年6月から4つのプログラムに分けて授業を行い、消防隊員による災害や事故時の救急救命講習、地域住民に災害への備えを呼びかけるための「防災チラシ」の配布など、最終年度は「動く」を中心に進めました。

3年間に渡り、取り組んできた防災学習で最後のプログラムが行われました。最終年度に行った学習内容についてレポートします。

自分と家族を守る状況に応じた行動 情報の収集と判断能力

12月7日は鹿児島地方気象台から職員2名を講師に招き、状況に応じてどのような行動が必要になるか考える「大雨防災ワークショップ学習」を行いました。グループごとに住居周辺の地形や家族構成を設定し、時間経過により変化する防災情報の収集を行い、避難所へ安全に移動するタイミングなどを考え発表。近年増加の一途を辿る「大雨」という自然災害から自分と家族を守るための処置判断能力を向上させる学習となりました。

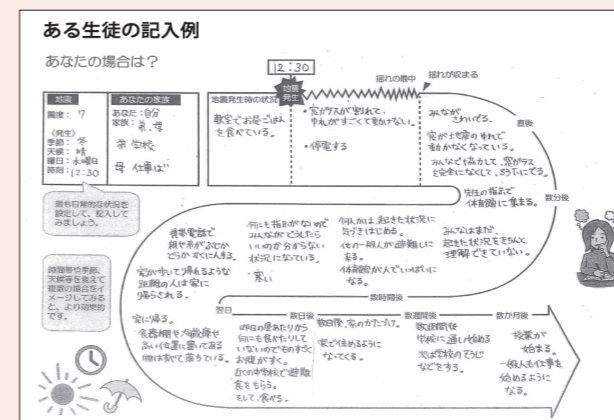


①講師を務めた鹿児島地方気象台の轟地域防災官 ②防災気象情報を収集し、避難経路を考える生徒 ③グループで考えた避難経路を発表する生徒



災害発生で起こり得ることを想像 災害時の備えを考える

6月6日、東京大学の目黒教授が考案したツール「目黒巻き」を使用して災害が発生した時の行動について学習しました。用紙に災害発生前後や数分後など、時間経過ごとの自分や家族が取る行動、町の状況などを想像しながら記入。自分や周囲の人の行動、感情などを具体的に想像することで、災害時の備えについて見直しができ、防災力を向上させることができました。



▲生徒が実際に記入した「目黒巻き」。完成すると絵巻物のようなことから「目黒巻き」と呼ばれています。

南部消防署隊員より救急救命を学ぶ 素早い行動と正確な技術

7月6日に南部消防署隊員4名が田代中を訪問し救急救命講習を実施。生徒たちは心肺蘇生法やAEDの使い方についてWebで事前に学習し、当日はダミーを使用した救急救命講習に臨みました。災害発生時に限らず、事故などで呼吸と心臓が停止してしまった人を救うには、秒を争う素早い対応と正確な技術が必要と教わった生徒たち。講習を受けた生徒全員に「普通救命講習修了証」が授与されました。



①②南部消防署の隊員より心肺蘇生法について講習を受ける生徒たち ③負傷時の対応方法を説明する隊員

錦江町防災専門監
(地域防災マネージャー)
小瀧 弘規



生徒が地域の中心となって高齢者や子どもたち、自分たちの命を守る目的で2019年から始まった田代中学校の防災学習。初年度から自助と共助の重要性、そして自助を支えるのは「情報を知る努力」「日頃の備え」「早めの避難」であることを生徒の皆さんに強く伝えてきました。

最後のプログラムでは与えられた設定を真剣に捉え、グループで話し合う姿や積極的に手を挙げて発表する姿が見られ、非常にたくましく成長していると感じました。生徒の皆さまが社会に巣立ち、一人の「親」として家族の安全を守る立場になったとき、この教育が役立つものとなってほしいと思います。そして、「子」に伝えていってもらえればさらに嬉しいです。

伝えてきた自助と共助の重要性